

園だより



2023. 9月号

Eメール matsunoki_mori@beach.ocn.ne.jp

ホームページ http://minnanomori.jp

保育園に泊まるということ ～仲間と一緒に願いを叶える～

年長の子どもたちに、夏祭り盛りから“おやまのまー”（架空の人物）から、手紙が届いていました。そして、夏祭りが終わると『わたしのやまへあそびにおいて』『26にちのあさまでいっしょにあそびたいな』等、山へ誘われたり、保育園に泊まることになったりと子どもたちはドキドキが隠せず不安になる子もいました。

そこで、どうしたら楽しい気持ちになるのかみんなで考えました。“星と月を見ながらアイスが食べたい”“花火がやりたい”“夜のプールに入りたい”“寝る前にプラネタリウムを見たい”等、子どもたちがやってみたいと思うことを全部取り入れ、保育園に泊まる気持ちを高めていきました。

当日の午前中は“おやまのまー”に誘われて、かわな野外活動センターで沢登りを体験しました。前日の大雨で平時よりも水量が豊富だったそうですが、全身に水を浴びながら1時間程の行程をみんなで登っていきました。大きな岩を避けたり、登ったりして、最初は転びそうになっていた子たちも、手や足でバランスを取り、危険なところを確認して登っていきます。

その内に、身体の使い方を覚えて、どんどん登っていくと沢蟹などの生き物を見る余裕も出てきました。五感をフルに活用しながら自然と向き合い、日常では味わえない経験をしながら、身体づくりもすることができました。

園に戻って夕飯を済ますと、自分たちで考えたお楽しみをする時間です。園庭にブルーシートを広げて星や月を見ながら、前日に作ったアイスを食べる子どもたちの顔はニコニコしていました。そして夜のプールでは、電球色の温かい色に包まれながら水遊びを楽しみました。

子どもたちにとって、親元を離れて泊まることは、とても大きな挑戦です。日々の保育園での生活を通して、離れていても家族は自分を大切にしてくれているという安心感が、保育園に泊まる力になります。そして、不安な気持ちがありながらも、仲間と一緒に話し合いながら活動を作り、仲間がいるから大丈夫、仲間も自分の支えになると分かり、さらに安心することで仲間との関係が育まれていきます。

朝、起きてきた子どもたちの清々しい顔立ちから、一回り心も身体も成長したことを感じると共に、これからも保育園で、仲間と一緒に楽しい、面白い経験を存分にさせてあげたいと思いました。



【手足を使って水の流れる大きな岩を登ります】



【夜のプールに入り、梅ジュースで乾杯！】



【月と星を見ながら園庭でアイスパーティー】

プール納め

今年の暑い夏も、プールで水遊びをいっぱい楽しんできた子どもたち。幼児では、あおむし・さなぎ・ちょうの3学年が揃って、プール納めをして、自分ができるようになったことを披露しました。

あおむしは、足を揃えて伸ばすと、浮いて綺麗なワニ泳ぎの姿勢になっていました。中には潜りながらワニをする子もいて、他学年の子が「あおむしさんでも、潜れるだ。」と感心していました。

さなぎは、5秒間水の中で息をとめて、伏し浮き（蹴伸び）をしました。水に身を委ねて身体の力を抜くことができるのは、4歳児の心と身体のコントロールが揃ってきた証拠です。

ちょうは、上半身は脱力しながら、下半身は足を動かさず、ばた足に挑戦。顔に水がかかることや潜ることに抵抗のあった子たちが、泳げるようになり、この夏の成長を感じました。

プールでみんなに見られながら、できることを披露できたのは、この夏に水遊びが楽しく、好きになったからです。これから始まる運動遊びも、子どもたち一人ひとりが運動することが好き、楽しいと思いながら、自分の目標に挑戦できるよう関わっていきたいと思います。